



平成 27年9月24日

各 位

会社名 住友ベークライト株式会社
代表者名 代表取締役社長 林 茂
(コード番号 4203 東証第1部)
問合せ先 経理企画本部経理部長 山口 晋
(TEL 03-5462-4111)

業績予想の修正に関するお知らせ

直近の業績動向を踏まえ、平成27年5月11日に公表した平成28年3月期の業績予想を下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 平成28年3月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(平成27年4月1日～平成27年9月30日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想(A)	113,000	6,500	6,700	4,300	17.85 円 銭
今回修正予想(B)	105,000	4,700	4,900	2,000	8.30 円 銭
増減額(B-A)	△ 8,000	△ 1,800	△ 1,800	△ 2,300	
増減率 (%)	△ 7.1	△ 27.7	△ 26.9	△ 53.5	
(ご参考) 前期第2四半期実績 (平成27年3月期第2四半期)	99,784	4,756	4,960	3,275	13.60 円 銭

2. 修正の理由

当第2四半期累計期間の経済情勢について、当初の想定では先行き不透明な部分は有るものの、米国経済の安定成長持続、欧州経済の持ち直し、日本経済の消費増税の影響からの脱却等により景気回復に向かうものと予想しておりました。しかし特に期後半において、欧州の財政問題の顕在化とユーロ安、中国人民元切り下げショックと上海の株式相場急落を発端とする世界同時株安等、急激に景気の減速感が強まってきました。

このような状況の下、当社グループにおきましては、昨年6月に買収したVaupell社の業績が寄与しているものの、半導体封止材料はスマートフォンやパソコン向けの需要に力強さが無く、さらに高機能プラスチック事業も中国・東南アジア市場の低迷で、売上高は予想を下回る見込みとなりました。

また営業利益・経常利益も、固定費の抑制や収益構造の改善に鋭意努めてまいりましたが、売上高の伸び悩み等により当初予想を下回る見込みとなりました。加えて特別損失として減損損失13億円を計上することといたしましたので、親会社株主に帰属する四半期純利益も予想を下回る見込みとなりました。

減損処理の内容ですが、半導体パッケージ基板材料「LαZ®」について、より生産効率・コスト競争力の高い最新鋭の宇都宮工場生産ラインが本格的に立ち上がったため、同工場に生産の集約・統合を推進しているところです。これに伴いもう一つの生産拠点である静岡工場は少量の特定製品の生産や試作に特化することとし、その生産設備について減損処理するものであります。

※上記予想は作成時点において当社が合理的であると判断した一定の前提に基づいており、実際の業績は事業環境など様々な要因によりこれらの予想と異なる可能性があります。

ただし当第2四半期末の配当予想につきましては、平成27年5月11日に公表した内容（1株につき5円）から修正はございません。

なお通期業績予想につきましては、下半期の業績動向を見通した上で、追って公表いたします。

以上